

研究課題名

血液透析患者における細胞外液/細胞内液比が生命予後に及ぼす影響について

研究グループ

研究責任者の氏名

研究責任者：矢島 隆宏（松波総合病院 腎臓内科）

研究の目的および概要

血液透析患者さんにおいては、体液貯留と低栄養状態が生命予後を悪化させることが知られています。最近、生体インピーダンス法による細胞外液/細胞内液比が、体液貯留と低栄養状態を同時に評価し、さらに生命予後の予測因子である可能性が報告されました。しかしながら、その詳細は不明であり、今回我々は、改めて細胞外液/細胞内液比と栄養障害、生命予後との関連を検討します。今後、治療介入することで透析患者さんの生命予後の改善が期待されます。

この研究では、2008年から2018年に当院にて外来維持透析中で、生体インピーダンス法にて体組成の測定がされた患者さんを対象とします。対象者の方々の診療記録と検査データ（血液、生体インピーダンス法により得られた細胞外液/細胞内液比）を用い、生命予後との関連について後ろ向きに分析を行います。

検査データやカルテに含まれる情報をこの研究に使用する際には、個人の氏名の代わりに研究用の番号をつけて取り扱います。また、カルテを閲覧する研究者は最小限とします。研究用の番号がどなたのものであるかを示す対応表のファイルは、パスワードをつけて院内のインターネットに接続できないコンピュータに保管し、研究終了後5年間保存後廃棄します。研究成果の発表に際し、個人が特定できるような情報が公開されることはありません。

利用する情報の項目

カルテ情報：診療記録と検査データ（血液、生体インピーダンス法により得られた細胞外液/細胞内液比）

利用するものの範囲

上記の研究責任者

連絡先

松波総合病院

腎臓内科 医長 矢島隆宏

TEL: 058 388 0111 代、FAX: 058 388 4711